

平成 13 年度 灘のけんか祭り

松原八幡神社秋季例大祭



~ 松 原 ~

#### 14 日宵宮 - 宮前

・木場屋台が楼門へ拝礼の後，西交差点へ向かうとすぐに

ご見物の皆さん，ただ今より松原屋台の説明をさせていただきます。

祭りとは旧松原について説明します。松原の地域内に松原八幡神社があり，そして，御旅山神社もあります。宮本の位置にある松原村の住民の最大の喜びは「灘祭り」です。7カ村の氏子の皆さんが神社に集まり，祭りの行事がお旅山へと繰り広げられることを喜び，感謝しているのが松原の氏子たちです。

楼門をくぐって，お宮の中に入り本殿をぐるりと一回りしてご覧ください。本殿の周りには松原村の提灯(ちょうちん)が高々と掲げられてあり，戦(いくさ)の時，本陣を示す吹流しもあります。その昔，本陣のもっとも近くで守っていたのが松原です。

・幟を先頭に松原獅子屋台・屋台が見えてくる。

西の方に松原村の幟(のぼり)が2本見えてきました。1本は獅子屋台，もう1本は屋台の幟です。松原の獅子は，灘祭りの全体の露払いの役を務めますので，露払い獅子と呼ばれ大変重要な役を務めます。明日(あす)の本宮では夜明け前の午前5時頃に神社に参拝して，拝殿前で清めの神事を行い，神輿(みこし)の通る御旅山への山道を清め守り，悪魔を追放して無事御旅山，山上の神社に祭りの行列が到着できるよう，道案内役を務めております。

獅子屋台・松原屋台が宮入のために近づいてきました。ご見物の皆さんは危険ですから十分注意をして通り道を広くあけてください。獅子屋台の綱を引くのは，松原の子供たちです。

紫色の衣装を着ている人は，獅子係と呼ばれる今年44歳で男の厄年を元気に終わらせたいと願っている人たちで，同じ年の懐かしい友の集まりです。

次に，獅子屋台の幟について特徴を説明いたします。幟の先端をみてください。松原幟の先には，日鉾(ひほこ)が付けられています。日鉾には，天(てん)の神が降りてこられて地上の人々との対話が行なわれると昔からいわれております。日鉾(ひほこ)が先端に付けてあるのは松原の幟だけで，これも祭りの大事な要(かなめ)であり，松原の背負っている祭りの伝統です。

そして，傘鉾(かさほこ)ですがこれは600年以上も昔から最も高貴な人のために用意されたもので，神仏が一体の頃，宮本としての松原・東の丁が受け持っており，現在も受け継がれております。

獅子屋台に続いて松原屋台が勢いよく宮入します。幟を先頭に子供たちの持つ前髪(まえがみ)紙手，大人たちの並紙手に囲まれて松原屋台が威勢良く宮入をしてきます。こうして，松原は役員を先頭に，大人も子供も祭りに直接参加できる機会に恵まれています。

・幟が西交差点に差しかかる

いよいよ松原の宮入です。これから大勢の練り子，紙手に囲まれた松原屋台の豪華で豪

勢な宮入をご覧ください。

・松原屋台楼門前より中村口へ向かう

松原屋台の造りについてご紹介します。この屋台は昭和 55 年、今から 21 年前に造られました。主な特徴を説明しますと、木材は日本一の木曽檜で、今ではいくら探してもみつきりそうもないと言われる、樹齢 350 年ぐらいの節(ふし)の無い大木を使っています。金具は、100 年余り前、市内俵町に住んでいた、下間清兵衛(しもつませいべい)さんの作品です。特に、擬宝珠(ぎぼし)についている鯨(しゃち)は天下一品です。狭間(さま)は富山県、井波(いなみ)の名人、南部白雲(なんぶはくうん)さんの作品です。

松原は、昨年、伊達綱(だてづな)を新調しました。高覧掛けの絵柄は前後に牛若丸、武蔵坊弁慶、左右に武田信玄、上杉謙信が、手差しの刺繍で描かれた逸品で、水引幕とともに京都の川島織物の秀れた技術で造りました最高級品です。

松原の前の古い屋台は灘 7 村を代表して、県立歴史博物館に寄贈、後には、千葉県佐倉市にある、国立歴史民族博物館に展示されて日本国中の人々に鑑賞された後、平成 4 年 9 月 22 日、姫路市の県立歴史博物館に帰り正面玄関を入ったところに展示してあります。このことは私たち氏子にとっても自慢のできる祭り話です。

松原屋台が宮入を済ませ、松原獅子屋台が宮を出ますと休憩に入りますが、白浜支所前に設けられた獅子舞特設舞台で、松原の獅子舞が行なわれます。

一つは幣舞(へいまい)、もう一つは、五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祝っての舞が奉納されますので、是非見に行ってください。

以上で松原の説明を終わります。灘中放送部「」でした。ありがとうございました。

## 15 日本宮 - 宮前

### ・松原屋台支所前練り上げる

ご見物の皆さん、ただ今より松原屋台の説明をさせていただきます。

祭りとお松原について説明します。松原の地域内に松原八幡神社があり、そして、御旅山神社もあります。宮本の位置にある松原村の住民の最大の喜びは「灘祭り」です。7カ村の氏子の皆さんが神社に集まり、祭りの行事がお旅山へと繰り広げられることを喜び、感謝しているのが松原の氏子たちです。

楼門をくぐって、お宮の中に入り本殿をぐるりと一回りしてご覧ください。本殿の周りには松原村の提灯(ちょうちん)が高々と掲げられてあり、戦(いくさ)の時、本陣を示す吹流しもあります。その昔、本陣のもっとも近くで守っていたのが松原です。

これから松原屋台の宮入が始まります。ご見物の皆さんは十分注意をして、道を広くあけてください。

子供の紙手を先頭に続いて、松原自慢の「日鉾」(ひほこ)の付いた大幟(おおのぼり)を元気あふれる若い人たちに守られ - - - 続いて大人の紙手の波、力強く威勢の良い練り子にかつがれた松原屋台の宮入です。小学生・中学生の少年たち・青年の集団・大人たち、文字通り一丸となった豪勢な宮入です。さすが松原屋台といわれている豪華な造りをご覧ください。

昨日の宵宮には、屋台の前に獅子屋台が宮入しましたが、今日は祭り全体の露払い役として、祭りの無事故を祈願する行事を夜明け前の午前5時頃から勤めております。

どうぞ皆さん松原屋台の宮入を十分堪能(たんのう)ください。

### ・松原屋台が楼門をはなれると

松原屋台の造りについて説明します。

木材は日本一の木曽檜で最近ではなかなか手に入らないといわれています。樹齢350年ぐらいの節のない大木を使っています。

次に、金具ですが今から100年余り前、市内俵町に住んでいた当地方最高の名工、下間(しもつま)清兵衛さんの作品です。今、金具造りで有名な川村さんはその下間さんのお弟子(でし)さんです。特に擬宝珠(ぎぼし)についている鯨(しやち)は天下一品で松原屋台の最も特徴とします。

露盤(ろばん)には次のように彫刻されています。正面に神武天皇 大和平定の図、右横には義経の初陣、左横は豊臣秀吉と徳川家康が戦った小牧の合戦、後方には上杉謙信と武田信玄の川中島の戦いが彫刻されています。

狭間(さま)は富山県井波の名人、南部白雲さんの作品です。

松原は、昨年伊達綱を新調しました。特に、高覧掛け、水引幕の衣装は京都西陣織の川島織物の秀れた技術で造りました最高級品で、それぞれが手間のかかった豪華絢爛のものばかりです。

松原の前の古い屋台は豪華で、歴史的にも価値あるため、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館に展示され、日本中の人々に鑑賞していただいた後、平成4年9月22日に姫路に帰り、県立歴史博物館の正面玄関を入ったところに展示してあります。私たち氏子にとっても自慢のできる祭り話です。

以上で松原の説明を終わります。灘中学校放送部「」でした。ありがとうございました。

## 15 日御旅山 - 獅子屋台

- ・松原露払い獅子幟が西の地蔵に見える

皆様こんにちは、ただ今より祭りの行事について説明いたします。

播磨地方の秋祭りの中でも「灘まつり」は、江戸時代から続いている古い伝統と豪華で荒っぽいことから「灘のけんかまつり」と呼ばれています。

今年の年番はこの練り場から東へ2キロメートル程離れた宇佐崎地区です。

松原の露払い獅子屋台が間もなくこの練り場に到着します。日鉾(ひほこ)が幟の先に付いた特徴のある松原の獅子屋台幟が見えてきました。日鉾には天の神が降りてこられて地上の人々と交流が行なわれると伝えられております。

今朝の夜明け前の午前5時頃に、露払い獅子は松原八幡神社で清め祓い(きよめばらい)の神事を行い、神官一行、神輿(みこし)、屋台行列などの通る御旅山神社への参道を清め守り、悪魔を追放して無事行列が山上の神社に着座できるように道案内役を務めます。

獅子屋台はこの練り場近くまで松原の幼い男の子たちが綱を引き運んできました。露払い獅子の行事を担当するのは、獅子係と言う今年44歳の人々と獅子部の若者、そして役員である取締(とりしまり)の人たちです。

- ・獅子屋台練り上げ

獅子屋台が獅子係の人たちに担がれてこの練り場へ上がってきます。

ここからの露払い行事は、神輿(みこし)、屋台に先駆け、荒っぽいほど露払いの役目を果たすといわれ、前後左右と激しく動いた後、高く差し上げ掛け声とともに放り投げ落とす大変危険な練り方です。差し上げても、放り投げても止まることなく太鼓は打ち続けています。

御旅山全体に響いているこの太鼓の音が環境庁の「残したい日本の音風景百選」に選ばれました、皆さん今一度松原の獅子屋台の太鼓の音を聞いてください。御旅山の栈敷席の皆さんに聞いていただくこの太鼓こそ永久に残したいすばらしい日本の祭の音と思います。

永年の伝統で松原の誇りとする露払い行事で祭りもいよいよ最高潮に入ります。練り場は大変危険ですから練り場におられるご見物の方は安全なところに移動してください。練り場は広くあけておいてください。

露払い獅子の掛け声の紹介をします。

若ノ松セーエ ママ ソラ エッサノサカ ヨーオ ヨーオ ワーモウショウゲヤ オモシロヤ ナンジャーノー ヒョウタンヤ サアー エットウ エエ と掛け声をかけます。この掛け声には、前の方が五穀豊穰を喜びお祝いする言葉が、また後ろの方が豊臣秀吉に反抗したものと伝えられています。

- ・獅子屋台が山登りに向かう

練り場での荒っぽい露払い行事も終わり、御旅山へ登っていきます。皆さんご声援あり

がございました。登り口は大変危険です。道を広くあけてください。

・神官一行練り場にかかる

神輿(みこし)の出向(しゅっこう)と神官(しんかん)の渡行(とぎょ)の説明をいたします。

10月1日に拝殿外陣(はいでんげじん)に据えられた1の丸,2の丸,3の丸の神輿は今日15日の本宮には神社における神事と奏楽(そうがく)のあと,松原八幡宮が現在の位置に移る以前の発祥の神社である,御旅山山頂の神社に向かって出向します。

行列の順序は宮本である松原村露払いを先頭に東山の幟,東山社人(ひがしやましゃにん),神官,宮司,巫女(みこ),楽人(がくにん)と続きます。

東山の幟が先に行くのは,その昔神功皇后(じんぐうこうごう)が九州方面まで戦争に向かわれたとき,この播磨の灘で海が荒れ,海が静まるまで,今の奥山の麻生山に陣をはられました。海の静まるのをまって八家川を下られたとき,一番にお供を馳せ参じたのが東山村の人たちだったことに由来しています。

いま行列に白丁(はくちょう)と言う白い着物を着て参加しているのは,豊臣秀吉によって追放された元の神官の子孫の人たちであります。

昔はもっと長い立派な行列でありましたが,明治以降は現在のように昔の面影をわずかに残した形になっています。

## 15 日御旅山 - 屋台

### ・西地藏前松原屋台練り上げ

皆さん道路の東の方を見てください。日鉾(ひほこ)の付いた松原独特の幟を先頭に、大勢の紙手、練り子に囲まれ、松原屋台が威勢よく広畠にやって来ました。いよいよおまちかねの木場屋台との2台練りが始まります。

松原屋台の特徴を簡単に説明します。木材は日本一の木曽檜で、特により抜いた樹齢350年以上の銘木を使用しております。豪華な金具ですが、擬宝珠(ぎぼし)についている鯨(しやちほこ)をはじめあらゆる金具は、今から100年ばかり前の当地方の名匠、下間(しもつま)清兵衛さんによって造られたすばらしい金具です。

擬宝珠の下の彫刻、露盤(ろばん)は中山龍雲さんの作品で、正面は神武天皇大和平定の図、右横は源義経の初陣、左横は豊臣秀吉と徳川家康の小牧の戦い、後ろには上杉謙信と武田信玄の川中島の合戦が彫刻してあります。

松原は昨年、伊達綱を新調しました。特に高覧掛け、水引幕の衣装は、京都・川島織物の西陣織と日本刺繍の伝承技術の粋(すい)をつくした最高級品です。

皆さん、どうぞ木場屋台との豪華絢爛な屋台の練りを十分ご堪能(たんのう)ください。

以上で松原の説明放送をおわります。灘中学校放送部「」でした。ありがとうございました。